



天候に恵まれた修学旅行・校外学習



〔戦争で失った尊い命へ祈りを捧げる〕 〔緊張感と期待を胸に民泊先へ出発〕 〔瀬底島でシュノーケリング体験〕

3年生は、5/29~5/31の3日間、沖縄で修学旅行を満喫しました。第1日目は、当時女子高生だった「ひめゆり学徒隊」の方が、映像を通して語ってくださった戦禍の地を、実際に自分たちの足で歩くことから始まりました。悲惨を極めた地上戦で20万もの人が命を落とした沖縄に、今も残るガマ(沖縄の方言で自然洞窟や防空壕)の中を、一步一步踏みしめながら命の重さを痛感しました。

2日目は、マングローブ林の遊歩道を歩きながら、貴重な酸素の供給源であるマングローブが環境破壊によって危機に瀕していることを知りました。その後、シュノーケリング体験を終えて民泊先のご家族と対面し、それぞれの家庭へと向かいました。翌朝、お別れの式を終えたみんなから「沖縄の料理、メチャクチャ美味しかった。帰りたくなかった。」という声が多く寄せられ、民泊先の方々心が尽くしてくださったことに改めて感謝しました。その後、世界遺産「首里城」を見学し、班別自主研修で抱えきれないほどのお土産を手し、家族が待つ詫間の地へと向かいました。



2年生は、粟島の人々との出会いを通して、郷土の良さを見直す貴重な時間を過ごしました。5つの班(達磨窯、海洋記念館、漂流郵便局、瀬戸内芸術祭、獅子舞・太鼓)に分かれ、実体験を通して学びました。文化遺産の達磨窯の歴史を教わって作品作りに取り組んだり、瀬戸内芸術祭の作品制作に携わる人や獅子舞を復活させる活動に取り組む人たちの熱い思いに触れたり、漂流郵便局に届いた「事故で死んでしまった我が子に宛てた手紙」を読んだりするなかで、自分自身が今後どう生きるかについて真剣に考えました。



1年生は、班で協力しながら山道を歩き、様々なクイズ問題を解いていく「ウォークラリー」に挑戦しました。問題の中には、「弥谷寺の入り口の仁王像を思い出して体で表現しなさい」という問題もあり、楽しみながら進んでいきました。ふれあいパークみのでは、小雨が降る中でも思いっきり遊具で遊ぶ姿に、小学生のような無邪気さを感じました。滑ったり転んだりもありましたが、皆でいい思い出ができました。